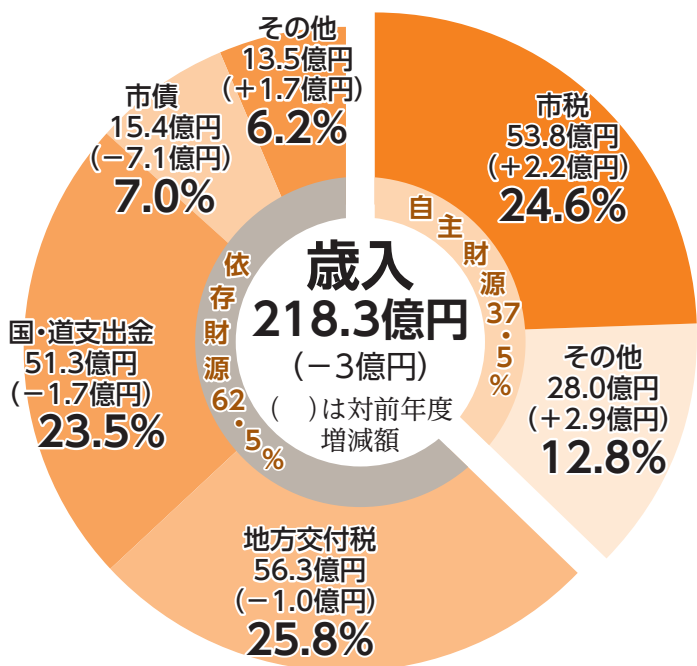


## 一般会計の歳入



## 一般会計予算額

218億2,500万円

## 特別会計予算額

104億2,880万円

## 公営企業会計予算額

52億7,080万円

## 全会計

375億2,460万円

## 令和2年度登別市の

# 当初予算

令和2年度の市の当初予算は、『令和2年第1回定例会』で議決され、成立しました。

今号では、令和2年度当初予算の概要をお知らせします。

※グラフについては、単位未満を四捨五入しているため、合計と内訳の計が一致しない場合があります。

問い合わせ 財政グループ (☎ 1331)

## お金の使い方

### 一般会計の概要

市税や地方交付税などを財源に、福祉や教育、公共施設の整備など、市の基本的な事業を行うのが「一般会計」です。

令和2年度の一般会計当初予算は、児童福祉や障がい者福祉関係の給付費などが3億400万円、ふるさと納税による寄附などの基金(貯金)への積立金が3億3千万円増加しました。

一方で、公共施設などの建設や道路の整備などに使う費用が11億4千500万円減少したことなどから、合計で218億2千500万円となりました。

市の一般会計の歳入は、国や道から交付される『地方交付税』(25・8割)と『国・道支出金』(23・5割)で収入の約半分を占めています。財政運営上、市民の皆さんに納めていただく市税の割合が高いことが望ましいとされていますが、市においては24・6%と、地方交付税よりも割合が低くなっています。

また、令和2年度は地方交付税や特定の事業に対して交付される国・道支出金が減少したほか、千代の台団地の建て替えや登別支署と登別温泉支署を統合した消防署東支署の建設工事費減少に伴い建設事業などを行う際に借り入れる市債が減少しました。

市の一般会計の歳出は、医療や福祉に使う『民生費』が38・2割、借金を返済

### 自主財源

**市税** 市民税や固定資産税などのお金  
**その他** 公共施設の使用料やサービスの手数料など

### 依存財源

**地方交付税** 人口や市税収入などに応じて国から交付されるお金  
**国・道支出金** 特定の事業に対し国や北海道から交付されるお金  
**市債** 国や銀行から借り入れるお金  
**その他** 地方消費税交付金など